



長期無施肥栽培のクワによる養蚕展示室

2023年11月19日に開催されました、無肥研の主要行事の一つであります農産展について、ご報告させていただきます。

1. 農産展



品評会で入賞したチンゲン菜（左）と水菜（右）

今年は天候不順のため、出品数などが心配されましたが、全国から無施肥無農薬栽培の米、野菜、加工品など61種類202品もの出品があり2F会場に展示されました。どれも立派な作物でした。本農産展の2日前に開催されました、京都市農業協同組合主催の秋季農産物品評会に入賞した水菜やチンゲン菜は、特に来場者の目を引いていました。外観だけで評価される品評会においても毎年入賞を続けています。



農産展会場には農産物だけでなく、全国の実施者紹介、無肥研スタッフによる調査の中間報告、見学会や研究報告会、農業体験など、様々なパネルが合計11枚掲示されました。興味を持たれた方がパネル作成者とお話をされる場面も多くみられました。別の部屋では養蚕関連

のスペースが設けられ、長期無施肥栽培のクワで育てられた蚕から取れた絹で作られた織物などが展示されました。来場者にお渡しする試食パックには無施肥栽培のおにぎり、大根の漬物、ポテトのフライが入っており、冷めてもおいしく食べられると評判でした。



1F 会場には無施肥農産物の販売コーナーが設けられました。大変盛況で水菜や小松菜などの野菜類、蓮根、みかん、酒粕などの商品は多くの方が求められました。

また、NPO 無肥研の指定取扱い店であり、巖田建商店による無施肥無農薬栽培茶の試飲コーナーが設けられました。すっきりと飲みやすく、おいしいと好評でした。慣行栽培のお茶は味が濃いのにに対し、無施肥栽培のお茶はさわやかで、優しい味わいが特徴で、産地や品種によっても味が異なること、また個々に好みの味わいに近付けることができるようなお茶の楽しみ方などもお話されていました。旨味が効いたお茶が好きな方には低い温度で、香りを楽しみたい方には高めの温度で淹れていただくなど、淹れ方を変えることで、より無施肥無農薬栽培のお茶の深みに気付いていただけたらと説明されていました。また、一煎目だけでなく二煎目、三煎目以降も味の違いを楽しめることを聞いて感心されている方、温度や抽出時間によってどのように味が変わるかなど熱心に質問される方もおられ、こちらも盛況でした。



無施肥無農薬栽培茶の試飲コーナー

2. 講演会



午後3時から会場をレイメイホールに移し、まず堀江理事長から農産展の総評をいただきました。今年の夏は記録的な猛暑で農業には不向きな年であったため、出品作物が少ないのではないかと心配されていたようですが、立派な作物が数多く出品されていたことに驚かされていました。中には20年以上もの長期間無施肥栽培を継続している圃場での作物も多くあり、大変すばらしかったとのことでした。さらに巖田建商店がアースデーに出店したこと（会報第20号にて報告）などにも言及され、私たちの地道な活動が広がってきていることを喜んでおられました。

続いて山形県で蕎麦や麦を栽培されている千葉陽平様から、「無施肥栽培の魅力と流通」という題でご講演いただきました。講演会にはオンラインを含む81名の方にご参加を頂き、元々農家の出身ではなかった千葉様が、山形県米沢の地で2014年に就農されたきっかけ、初めて無施肥栽培のニンジンに嚙り付かれた時の衝撃など、楽しくお話が始まり、年々無施肥の蕎麦の収量が安定かつ増収していること、栽培面積を拡大していること、ふるさと納税の返礼品としても人気で販路が拡大していることなど、お話くださいました。会場から害虫や病気の対策はどうしているかとの質問には、対策は一切しなくても問題はないということ、虫は受粉のために必要だと返答されていました。また、そば職人が無施肥のそば粉は慣行栽培のそば粉とは全然違うと感じておられる話も併せて紹介してくださいました。



千葉様は地域の農家の方と連携を図り、新規就農の受け入れなど、新しい農業をめざし、積極的に活動の輪を広げておられます。



3. 試食懇親会

その後、試食懇親会を持たせていただきました。ありがたいことに、29種もの無施肥の食材、加工品などを使用した貴重でおいしい食事を頂きながら歓談いたしました。6名の大学関係の先生方、講演者の千葉様もご参加くださり、研究に関するご指導をいただくとともに、生産者や消費者など様々な分野の方々と活発な交流がなされました。



★ 今後の行事予定

総会・研究報告会・懇親会 2024年3月17日(日) 予定

午前中は正会員の皆様にご出席頂き、当会の前年度（2023年1～12月）の活動結果並びにその結果を踏まえた今年度の事業計画や活動予算等をご審議頂く会員総会を開催いたします。

午後は当会の事業の柱であり、会員・非会員に関係なく、どなたでもご参加頂ける研究報告会を開催いたします。また、研究報告会につきましては、会場にお越しになれない方にもZoomを用いたオンラインによる参加も計画しております。なお、詳しくは別途お送りする案内状をご覧ください。

会報についてのご意見を、郵便、FAX、E-mailでお寄せ下さい。皆様のお力で会報を充実させていきたいと存じますので、ご協力のほどお願い申し上げます。
(編集担当)

〒606-8311 京都市左京区吉田神楽岡町106-2

【認定NPO法人】特定非営利活動法人 無施肥無農薬栽培調査研究会

事務局 TEL : 075-751-0347 FAX : 075-334-8058

E-mail : bureau@muhiken.or.jp URL : <https://muhiken.or.jp>

Facebook : <https://www.facebook.com/muhiken>